

令和6年度 学力向上を図るための全体計画

檜原村立檜原小学校

○東京都教育委員会教育目標
 ・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
 ・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
 ・自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間
 ○檜原村教育目標
 1. 自ら学ぶ子供（知）
 2. 明るく素直で、感性豊かな子供（徳）
 3. 元気な体をつくる子供（体）

檜原学園教育目標
 ○学びをつないで、持続可能な社会の創り手を育てる
 学園訓 「つなぐ つなげる つながる」

○学校、地域の実態 ○地域の期待や願い ○保護者の期待や願い ○期待される児童像
 「子供は村の宝」の言葉に表されるように、村民の学校教育への期待は大きい。保護者の学校行事等への参加も多く、小中一貫教育への関心も高い。恵まれた自然と落ち着いた地域社会の中で、子供たちは素直に育っている。その中で、愛情と情熱をもって子供たちと向き合う教師、常に学び続ける教師として、日々の教育活動を行っている。そこで本校では、社会の課題を自分事として捉え、進んで取り組み粘り強く積み重ねていける児童、豊かな感性をもち互いに思いやり学び合う児童、自ら健康で丈夫な体づくりに取り組む児童を目指し、確かな学力を身に付け、心身共に健やかに生きる児童の育成を目指す。

【各教科の指導の重点】
 ※【様式2】参照

【道徳教育の指導の重点】
 ・自信をもって思いや考えを表現でき、様々な人間関係の中でコミュニケーションがとれる子供を育成する。（重点）
 ・学校生活全ての場で人権尊重教育を推進するとともに、自他を大切にし、人間関係を形成することで、ウェルビーイングを向上させていく力を育成する。
 ・児童、保護者との信頼関係を深め、いじめや差別に対しては毅然とした態度で、組織的に指導する。同時に、いじめや差別をした児童の心に迫り、いじめや差別をしない心情的な強さを育てる。
 ・道徳教育推進教師を中心に ICT を活用しながら授業を計画的に実施するとともに、道徳授業地区公開講座や意見交換会のさらなる充実を図り、地域と密着した取組を行うことで、地域の教育力を生かし、児童の道徳性を高めていく。

【総合的な学習の指導の重点】
 ・問題解決や体験的な活動、主体的・創造的・協働的な活動などを重視した教育方法（檜原メソッド）を創造し、探究的な教育活動を実践することにより、自己の生き方を考える力を養う。
 ・各教科、道徳科、特別活動等で培った知識、心情、社会性等を有機的に結び付けた学習を実践し、自ら課題を見付け、探究的な活動を通して問題解決する資質や能力を育成する。
 ・地域人材や地元企業、地域素材を活用し、SDGs とのつながりも考えながら檜原の自然や伝統文化等をより身近なものとして捉えられるよう工夫して教材化を進め、郷土檜原のよさに気付かせる。
 ・檜原の豊かな自然にふれることで、環境を守ろうとする意欲を育み、檜原を愛する心の素地を培う。そのために、ピオトープの環境整備を行う他、第3・4学年で地元野菜の栽培や紫根染、第5学年で檜原米作りやバードカービング、第6学年で森林体験等を実施する。
 ・他校との交流学習を通して他地域に目を向け、環境や生活・考え方の違いを知り、視野を広げて比較し、檜原や自らのよさと課題を再認識させるとともに、表現力やコミュニケーション能力を高める。

学校経営方針（授業改善推進上の要点）
 ・檜原村の小中一貫教育第三期計画を踏まえ、公教育9年間を見据えた各教科年間指導計画・評価計画の下に、檜原メソッドを浸透させ、確かな学力の向上を図る。
 ・児童のよさや変容を確実に見取り、児童に伝えることで、児童自身によさや変容を自覚させ自信につなげていく。また、児童が安心できる環境を作ることで、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。
 ・「話し合い活動」を通して、自発的・自治的に学びに向かう力の育成を目指す。
 ・各種学力調査結果を参考に、授業改善推進プランを作成する。児童の実態に応じた適切な支援を行い、主体的・協働的に学ぶ意欲と考える力を育成するために、課題解決的な学習を積極的に導入し、ICTを活用しながら、個別最適な学びを実施する。
 ・特別支援教育コーディネーターを中心に SC、心理士、特別支援学校他関係諸機関と連携し、専門的知見とアセスメントに基づいた役割分担をして、特別支援教育の更なる充実を目指す。
 ・1単位時間の授業のねらいを明確にして、児童に学習のめあてをもたせるとともに、学習の終わりには授業を振り返らせるまとめの時間を設け、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
 ・3～6年で算数の少人数指導の充実を図り、児童一人一人の状況に応じたきめ細かな支援を行う。また、外国語・図工を中心に中学校教諭とのTT授業で実施する。
 ・村立図書館と連携した読み聞かせを中心とした取組を年8回実施すると共に、家庭に向けても読書の推奨を行うため、親子読書旬間を設け、言語能力の向上及び読書好きの児童を育てる。
 ・毎学期、体力テストの結果を基に元氣アップ週間の取組を実施し、家庭と連携して体力向上と生活習慣の確立を図る。また、休み時間を利用し、遊びを通した体づくりに取り組む。
 ・自主的に学ぶ意欲を引き出すとともに、主体的に考える力の育成を図るため、小中合同の学園全体会等を通して研修に努めるとともに、互いに研鑽し合い授業力の向上を図る。
 ・各教科の年間指導計画の見直しや年間3回の授業研究等を実施し、ICTを積極的に活用し、9年間の指導の在り方を追究するとともに互いの授業力向上の機会とする。
 ・スタートカリキュラムを基にした小保連携の充実に取り組み、小一プロブレムの解消を図る。

本校における学力観（「確かな学力」を図るために）
 ・課題解決的な学習を自ら進んで取り組み、協働して解決に向かって粘り強く進めていく力（重点 話し合い活動を主とした協働的な学び）
 ・小中9年間、ひいては生涯に渡って学び続ける意欲（重点 個別最適な学び）
 ・既習事項や生活経験を活用し、考えを深めていく力
 ・漢字、計算などの基礎的な学力

【キャリア教育の指導の重点】
 ・一人一人の児童を認め励ますことによって自己有用感・自己肯定感をもたせると共に、キャリアパスポートを活用して、自分の将来に対して夢や希望をもって、自己実現及び自己の幸福を追求する態度を育成。
 ・地域の教育資源を最大限生かした教育活動の実施をすすめ、地域人材及び地元企業と連携し学習活動を行っていく。

【特別活動の指導の重点】
 ・学級や学校での生活をよりよくするための課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成する力を育む。また、自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践する力を育む。
 ・教職員と児童、児童相互の好ましい人間関係の醸成に努めるとともに、ソーシャルスキル等多様な指導法を活用し、集団や社会の一員としてのよりよい生き方についての自覚を深めさせる。
 ・児童の興味、関心、意欲及び児童が直面する諸問題を、学級活動や児童会活動、学校行事の活動場面に取り上げ、児童が自主的、実践的に諸問題に取り組むよう、活動の場を工夫する。特に、たてわり班活動等の異年齢集団での対応力を育む。

【生活指導・進路指導の重点】
 ・生活習慣を常に意識させ、日々の生活の見直しをさせることで、正しいリズム、規律ある生活を送る自主性・自立性の伸長を図る。
 ・教職員間で情報交換を密に行い、児童に関する共通理解を深める。また、日常的に児童のよさや変容を全教員で交流し合い、発達支持的生徒指導を行う。
 ・全教育活動を通して、問題行動に対する即時的な指導を行い、児童自身の自己指導能力を育てていく。
 ・児童理解に努め、生活指導朝会、生活指導全体会、指導連絡会等で共通理解を図り、全職員が協力して指導を行う。また関係諸機関と連携し、効果的な支援を行う。
 ・意図的・計画的に各種訓練や安全に関わる学習指導を実施することを通して、安全指導の充実を図る。交通事故や非行・犯罪・不審者から身を守る指導、薬物乱用防止、情報モラルへの指導を徹底し、日常生活での実践を通して安全対策の習慣化を図る。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内研究や校内研修の工夫	家庭・地域との連携の工夫
○カリキュラム・マネジメント 教科等横断的な視点、外部人材活用、PDCAサイクルを活用し、教育活動の質の向上を図る。 ○基礎的学習内容の定着率向上 ○習熟学習と意味理解学習の時間確保 ・複数指導体制の確立 ○「ふるさと檜原学習」の充実・改善 ・小・中を見据えた系統的な年間指導計画 ・檜原メソッドの主体的な活用 ○全教科等における「体験活動」の充実 ○発表の場の確保と工夫 ・各集会での児童の発表 ・連合音楽会 ・ふるさとひのはら学習発表会 ○読書週間の充実 ・読書習慣の定着に向け、学校及び家庭で親子読書週間の取組を推進 ○英検 jr・漢字検定での合格率向上 ・東京グローバル・ゲートウェイの活用 ・放課後学習教室と連携した取組 ○小中一貫を視野に入れた中学校との連携 ・学園全体会 ・研究授業	○「主体的・対話的で深い学び」への授業改善 ・週ごとの指導計画や児童の実態を基にした授業改善推進プランの作成と実施 ○少人数指導と個別最適な学び・協働的な学びの充実 ・習熟度別指導の活用 ・東京ベーシックドリル・学習支援ソフトの活用 ・個の課題に寄り添った学習支援 ○SDGs との関連を図った総合的な学習の時間の充実 ○全教科等における「問題解決型学習」及び「話し合い活動」の積極的な導入 ○各教科のねらいを達成するための言語活動の工夫 ・毎時間の振り返り（書く活動→書く力の向上） ○全校体制で系統的・継続的に取り組む指導の充実 ・児童が主体的に学ぶ指導 ○体験活動を重視した指導内容 ○ICT等を活用した、授業時間内・外における補充・発展学習の充実 ○外部講師など、学習支援者の積極的な活用 ○小中連携による指導法の工夫 ・外国語教育の充実 ・指導交流、連携授業の充実 ○スマールステップによる系統的な指導の工夫	○PDCAサイクルの確立 ・めあてと振り返りの充実 ・評価規準に則った評価の実施と指導計画の作成 ・指導と評価の一体化 ○評価方法等を明確に位置付け、保護者に発信していく。 ○日常的に、児童一人一人の良い点や可能性、進捗状況について、認め、励ます。 ○振り返りシートを生かした個別指導の充実 ○個別学習カードの活用 ○ワークシートの工夫 ○児童による学習評価の活用 ○次のめあてを明確にするための自己評価 ・互いを伸ばす相互評価 ○ミニテストを使った段階的な学習面の見取り	○OJTの充実 ・OJTウィークを積極的に実施し授業交流を図る。 ・OJTタイム、OJTコーナーのさらなる充実。 ○児童の実態把握と活用 ・村学力診断テストの実施（2～6年） ・全国学力・学習状況調査（6年） ○校内研究の充実 ・話し合い活動を通して、自発的・自治的な態度を育む指導の工夫を図る。 ○主体的に学ぶ児童の育成 ・意欲を高める学習課題、指導方法の工夫 ・振り返りと次への活用を意識的に行う。 ○体験を取り入れ、生活に生かす学習の創造 ・めあてを明確にし、具体的操作や活動を重視 ・9年間を見通した体系的な計画書の作成と実施 ○多様な問題解決方法を身に付けさせる指導の工夫 ・課題別学習 ・習熟度別学習 ○言語能力の向上を目指した読書活動や表現活動の工夫 ○ICTを活用した双方向型情報共有の充実	○児童の基本的な生活習慣、生活リズムの確立についての家庭への啓発 ○メディアコントロール週間と親子読書旬間の実施 ○家庭学習の啓発 ・学校、学年だよりや保護者会等 ・学習用端末の持ち帰りの推進 ・学習支援ソフトを活用した家庭学習の推進 ・ICTを活用した家庭学習プリントの充実 ・ICTを活用したオンラインタイム ○年度の始めに地区巡りを実施 ○外部評価の実施 ・地域、保護者の学習面における願いや評価の把握 ○地域性を生かした校外学習 ・檜原村を素材とした校外学習の実施 ○小中で継続的に家庭教育の取組を啓発 ○学校だより、学年だよりによる情報発信及び、HP、メール配信システムを活用した日常的な情報（学習、活動の様子など）の発信を充実させる。